

26PB-am299

日本薬科大学における「プレ教育」の取り組み～プレ教育から実務事前学習へ～
○久保田 洋子¹, 佐古 兼一¹, 松村 久男¹, 有富 桂子¹, 松田 佳和¹, 藤原 邦彦¹ (1日本薬大)

目的：本学では、4年次プレ教育（服薬指導と患者情報）において、医療 NAVI ファーマシストトレーナー（株Urimina）を使用したコミュニケーション教育を実施し、6年次には POS 実践論を履修する。今回、改訂モデル・コアカリキュラムの準備を開始し Communicative competence の 4 能力を向上させ、患者情報の収集・評価・管理を整理して SOAP にまとめる一連業務の修得を目指し、患者情報から服薬指導を組み立てる実習を実施した。コミュニケーション能力醸成とともに処方解析・モニタリング能力の向上を目指した。

方法：4年次約 200 名「服薬指導と患者情報」「疑義照会入門」：90 分×3 コマ×4 回の実習における初回実習に導入した。2016 年 9 月 13 日 - 23 日 8 日間に、学生を 2 グループに分け、コンピューター室で実施した。SOAP 作成（2 症例）とシナリオ作成（2 症例）のワークシートを評価した。4 段階評価のカテゴリカルデータに対して各群を比較するためにノンパラトリックな手法により群間の有意差を検定した。

結果：4 段階の評定尺度評価（4：優れている、3：よくできている、2：あまりよくできていない、1：できていない）で 4：50%、3：30%、2：20%であった。SOAP 記録とシナリオ作成には相関があり、ファーマシストトレーナーはシナリオ作成には有効であった。

考察：本学におけるこれまでのプレ教育は薬局・病院・医師との疑義照会などの各症例で実施していた。今回、患者情報の収集から服薬指導までの IT によるコミュニケーション教育と並行し、SOAP 記録・シナリオ作成の導入による、処方設計からモニタリング・記録までの連続プログラムが有効であることが示唆された。